



東北 みどり戦略だより

東北農政局 第10号 令和8年7月発行

東北管内における「みどりの食料システム戦略※」の着実な進展に向け、関係の皆様タイムリーな情報をお知らせできるよう、「東北みどり戦略だより」を発行しています。

※「みどりの食料システム戦略」は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため、農林水産省で策定したものです。

「みどりの食料システム戦略」
の詳細はこちら→



<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/>



みどり加速化GXプランを決定しました！

～GX投資の拡大と適応策・有機農業の加速化～

農林水産省は、2026年6月25日に農林水産大臣を本部長とする「みどりの食料システム戦略本部」の第18回会合を開催し、「みどり加速化GXプラン（通称：MIDORI BOOST）」を決定しました。

「みどりの食料システム戦略」の策定から5年が経過し、この間、食料・農林水産分野において、環境負荷低減の取組は着実に進展し、社会全体におけるGXの進展も相まって、企業からも関心が高まっています。一方で、気候変動による影響の深刻化や国際情勢の変化により、農林水産業の持続性の確保に向けた課題が顕在化しています。

みどりの食料システム戦略の取組を加速化し、食料安全保障の確保に向けた取組や民間投資を推進するため、食料・農業・農村基本計画に基づき2030年までを目途に集中的に取り組むべき施策を「みどり加速化GXプラン（通称：MIDORI BOOST）」として取りまとめました。プランの全体像は以下のとおりです。

「みどり加速化GXプラン」の全体像

みどり加速化GXプラン
の詳細はこちら→



横断的課題

GX投資拡大に向けた新たな視点

食料・農林水産分野におけるGX投資の「勝ち筋」を示し、幅広い層からの投資を呼び込み、稼げる農林水産業を実現



食料・農林水産分野へのGX投資拡大

- 1 GX投資拡大に向けた予見可能性の向上
重要技術の開発・実装の見通しや市場規模予測を可視化
- 2 農山漁村におけるGX投資の受け皿の整備
地場産業の育成や地域循環経済の創出への企業参画等を推進し、食料・農林水産業、農山漁村への投資を呼び込み
- 3 多様な投資手法の活用
ブレンデッドファイナンス（官民投融資）やGX関連の投資支援策等の有効活用

4 食農GX技術の海外展開

金融機関等の国内外のステークホルダーと連携したGX技術の海外ビジネス展開を戦略的に推進

5 リジェネラティブ農業（環境再生型農業）の明確化

海外で大きな投資が進むリジェネラティブ農業について、我が国における考え方を明確化

サステナブルフードの供給強化

（環境価値の付加された食品・食品原料・マテリアル）

各施策加速化

みどり戦略の加速化に向けた施策の強化

みどり戦略に基づく施策について、顕在化した課題への対応や、発展的活用を進め、進捗を加速化



気候変動への適応策強化

- 1 国民の食を脅かす気候変動への適応
適応品種・技術の効率的な開発や産地への情報発信、産地の将来の在り方に関わる施策との連携強化を通じ、産地単位やサプライチェーン全体で連携した適応策の実践を加速

国際情勢に左右されない食料生産の確保

- 2 世界で勝てる有機農業の面的拡大
有機JAS認証の活用や地域の関係者の参画等により、国内外の有機マーケットを捉えて成長する有機産地を形成
- 3 国産バイオマス・再エネの新たな活用促進
改質リグニンや高機能タンパク質といった、農林水産物由来の国産バイオマスの新用途への利用促進や、新たな再エネ資材の農業用施設への活用等を推進し、バイオマス産業の規模拡大を実現

食料システム全体の連携強化

4 みどり戦略に基づく施策の新たな展開（第2フェーズ）

Ｊークレジットを通じた企業と生産現場との共通価値の創造
※(CSV) 促進、みえるらべるの仕組みのScope3への対応等、施策の発展的活用

5 GREEN×EXPO 2027を通じた国民理解の醸成

GREEN×EXPO 2027の機会を活用し、みどり戦略等の発信を通じた持続可能な食と農の実現に対する国民理解を醸成

※共通価値の創造（CSV:Creating Shared Value）とは、企業が本業を通じて社会的価値と経済的価値を同時に創出する考え方のこと

2027年国際園芸博覧会 (GREEN×EXPO 2027) と みどりの食料システム戦略



国際園芸博覧会についてはこちら→



2027年3月からGREEN× EXPO 2027が開催されます！

みどり加速化GXプランにもあるとおり、2027年3月19日～9月26日まで横浜で開催される2027年国際園芸博覧会（GREEN× EXPO 2027）の機会を活用して、みどり戦略等の発信を通じた持続可能な食と農の実現に対する国民理解を醸成していきます。

▶カーボンニュートラルにつながる最新の技術の紹介や、農山漁村における再エネ・未利用資源に関するフォーラム、ネイチャーポジティブ実現に向けた生物多様性保全活動の理解促進のためのイベントなどを実施する予定です。



Topic

GREEN×EXPO 2027 日本政府苑

GREEN×EXPO 2027 日本政府苑においては、異常気象や自然災害の影響を受けずに省資源型の安定栽培を実現する「完全閉鎖型植物工場」や、ペロブスカイト太陽電池や有機薄膜太陽電池を用い、化石燃料使用を極力抑制した農業用ハウス等のグリーン産業におけるイノベーション技術を多数展示予定。

食料安保/エネルギー・資源安保を支える新技術や、「戦略17分野」をはじめ成長投資による新技術立国の姿の展示等を通じ、世界共通の課題を解決する技術、製品、サービス、インフラをいち早く我が国が社会実装し、海外展開につなげる道筋の後押しを目指す。



完全閉鎖型
植物工場

出典：株式会社プランテックスHP

有機薄膜
太陽電池

画像提供：株式会社MORESCO

環境負荷低減の 見える化



見えるらべる

温室効果ガス削減や生物多様性の保全の取組を分かりやすく等級ラベルで表示します。



J-クレジット制度

CO2等の排出削減量などをクレジットとして国が認証する制度。クレジットの売買が可能です。



J-クレジット制度



みどりチェック (クロスコンプライアンス)

農林水産省の補助金等の交付を受ける場合に、最低限の環境負荷低減の取組を実施していただきます。



みっちゃんのミッドミッド♪ #7 夏休みにやりたいこと！



※1 みどりの戦略
学生チャレンジ
東北農政局
受賞結果



※2 グループ
申請による
みどりの認定
動画



作・ゆみ☆マルキン

オーガニックビレッジ情報



オーガニック
ビレッジの詳細
はこちら→



東北管内では、2026年6月末までに6県23市町村が「オーガニックビレッジ宣言」を既に行っています！

「オーガニックビレッジ」とは、有機農業の拡大に向けて、ほ場の団地化などの生産から学校給食での利用などの消費まで一貫した取組を、農業者、事業者、地域内外の住民などの関係者が参画の下、地域ぐるみで進める市町村のことです。

農林水産省では、オーガニックビレッジを2030年までに200市町村創出することを目標に、全国各地での産地づくりを推進しています。

最近の東北管内では、2026年4月に宮城県大郷町が、6月に福島県会津若松市がオーガニックビレッジ宣言を行いました。



宮城県大郷町



福島県会津若松市

◆「東北みどり戦略だより」の問合せ先：東北農政局企画調整室総括チーム
022-263-1111（内線4080、4259）

